

さくら教室だより

令和5年4月12日
東久留米市立第九小学校
校長 山本 真美 枝
特別支援教室 担任

御入学、御進級おめでとうございます

新しい年度を迎え、学年が一つ上がり希望と期待に胸を膨らませて登校する子どもたちや、新しいランドセルを背負ったどこか誇らしげな一年生の姿がたくさん見られました。どの子ども、この年度初めは「新しい毎日が始まるな」「明日も学校が楽しみだな」というわくわくした思いを抱いているかと思います。そんな子どもたちの思いを大切に、今年度も、保護者の皆様、担任の先生方としっかりと連携しながら、子ども達のさらなる成長を見守っていきたくと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

さくら教室担当教員・・・
特別支援教育専門員・・・

<九小さくら教室ってどんなところ？>



1. どんなことをするの？

- お子さんの特性に合わせた学習方法を考えたり、苦手な部分を補うトレーニング課題に取り組んだりします。
- クラスでうまくいかないところについて、どうやったらうまくいくか一緒に考えたり、練習をしたりします。
- 小集団活動では、3～10人ほどの少人数で、ゲームや話し合い活動、簡単な運動や製作などをしながら、対人関係スキルや自信をもって学習に参加できる力を養います。

2. いつ？

- ・学級の時間割を考慮しながら、指導時間を決めます。
- ・週当たり1～2時間を目安に指導を進めます。

3. どこで？

- ・九小さくら教室
- ・視聴覚教室や体育館を使うこともあります。

4. 指導期間は？

- ・指導期間は、1年です。
(11月～12月に、来年度の継続・終了についての面談があります)

◎さくら教室に来るときの持ち物

- ・筆箱
- ・その他、必要に応じて



◎青ファイルについて

さくら教室では、それぞれの担当教員が毎回の指導の様子や気付いたことなどを連絡用紙に記録し青ファイルにはさみます。指導終了後、担任にも学級での様子などを書いてもらい、各家庭に持ち帰ります。保護者の方にも内容を確認いただき、簡単なコメントを書いていただきます。青ファイルは、忘れずに次の通室日までに担任にお渡しください。

※前年度の青ファイルをお持ちの場合は、4/14(金)までに学校にお戻しください。

さくら教室担当者→担任→御家庭→担任→(専門員)→さくら教室担当者

〈学習の記録（青ファイル）について〉

月 日 () 名前		
今日の学習	さくらより	
<p>お子さんの学習内容をお伝えします。</p>	<p>お子さんの学習内容や様子を具体的にお伝えします。</p>	
☆担任の先生から	<p>在籍学級担任の先生に、クラスの様子などを書いていただきます。</p>	
☆御家庭から	<p>御家庭での様子や、さくら教室で取り組んでほしい内容など保護者の方に書いていただきます。 お忙しい場合は、見ていただいたことが分かるように、サインでも結構です。</p>	

○さくら教室への連絡について

さくら教室教員は巡回指導になりますので、下記のように、曜日ごとに勤務している学校が変わります。何かありましたら、九小の特別支援専門員の野口先生に伝言をしていただくか、巡回先の学校に御連絡ください。

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
第九小	第五小（午前）	南町小（午前）	南町小	第五小
	第九小（午後）	第九小（午後）		

第九小学校（さくら教室職員室直通）	042-472-8090
第五小学校（職員室）	042-461-5843
南町小学校（職員室）	042-461-2662

※今後も緊急時等の電話をさせていただくことがありますので、さくら教室直通の番号を登録しておいてくださるようお願いします。

○今後の予定（年間当初の予定ですので、変更する場合があります。）

1学期

- 4/17（月） 2～5年生指導開始
- 21（金） さくら教室保護者会
- 26（水） 1年生指導開始（教室支援の場合もあります）

- 6/6 } 個人面談1（担任・保護者・さくら担当者）
- ~ }
- 6/23 }

2学期

- 9/11（月） 指導開始
- 11/7 } 個人面談2（担任・保護者・さくら担当者）
- ~ }
- 11/24 }

3学期

- 1/17（月） 指導開始
- 2/20 } 個人面談3（保護者・さくら担当者）
- ~ }
- 3/12 }



【さくら教室のちょこっとコラム】 スモールステップで取り組もう！

たくさんの仕事があると頭がパンク状態になることはありませんか？ もともと人間の脳はマルチタスクには向いていないと言われています。そのため、同時にいろいろなことを進めるうちに、途中で混乱してしまったといった経験が、誰にでもあると思います。そんなときは、スモールステップで活動を細かく区切って行くと、苦手なことでも少しずつ取り組めるようになります。いくつかの例を紹介します。取り組めそうなものがあれば、ぜひお子様の宿題などをみるときや、何か頼みごとをするときにご活用ください。

① 手順を区切ろう

「作文がなかなか書けない」といったお子様の悩みはありませんか？ 作文はとても難しい活動の一つです。単純に「作文を書く」といっても、その活動を細かく分けると、①構成を考え、②下書き、③推敲、④修正という4つの活動を同時並行的に行わなくてははいけません。これはなかなか大変です。

表現の練習	かけっこ	本番

そこで、左図のように短冊を用意して書かせてみてはいかがでしょうか。運動会の作文を例にすると、「表現の練習」「かけっこ」「団体競技」「本番前の気持ち」「本番が終わったあと」などと、作文を構成する要素を細かく区切り、それぞれの短冊に書いていきます。自分で書けそうな部分から書き始め、あとで短冊を入れ替えながら全体の構成を考え、最後に清書をします。

こうすると、①の構成を考えることと④の修正を考えずに取り組めるため、それだけでもずいぶん負担が減りますし、一つ一つの短冊の分量も大した量ではないため、書くことが苦手な子どもでも心理的負担が減るので、取組やすくなります。



② 時間を区切ろう

なかなか集中が続かないことってよくあると思います。そんなときに一番気になるのが時間です。時間を細かく区切るのも有効なスモールステップになります。その際に大活躍するのが砂時計です。

砂時計のいいところは、時間を可視化できる点です。見えないものが見えるようにするだけで、子どもは見通しをもつことができるようになります。

【砂時計の活用術】

- 1、 砂時計を渡す前に約束を決める。「この砂時計が落ちている間はしゃべらず〇〇をがんばろう」
- 2、 子どもが返事をしたら、「では始めます。スタート」といって砂時計をひっくり返す。
- 3、 砂時計が落ちる間、子どもが約束を守って静かに取り組んだら、ノートやドリルの端に花丸を書いてあげる。
- 4、 「少しだけ休んで、また始められると思ったら、今度は自分でひっくり返して始めてください」と提案すると、あとは自分でどんどん集中していきます。

※最初は1分や3分など短い時間で行うといいです。次第に集中してたら、いつのまにか砂時計をおちていたという姿が見られるようになります。

スモールステップは苦手なことを少しずつできるようにして多くの成功体験を積みせる方法です。スモールステップ化されたことを1つクリアできた度に、たくさん褒めてあげると、子どもの自信につながります。スモールステップは子どもを褒める機会を多く作るための方法でもあります。ぜひお試しください。

